

## 2013 北海道旅ログ その6

今回が最終回となる。

ものごとは、始まりがあれば終わりがくる。

あれほど情熱を傾けたことも、終わってしまえばあつけないものだ。

祭りのあとの寂しさは、誰しも経験があるだろう。

7日目。

チェックアウトするために、バイクを裏の二輪駐車場へ取りに行くと、足下には枯葉が散らばっていた。

北海道の秋、そして冬は、もうそんなに遠くはないのかもしれない。



その日は、23時半のフェリーに乗る予定だったから、夕方頃まで観光し、その後、小樽へ向かうことになる。

まずは、もうひとつのマイルドセブンへ行くことにした。それはこんもりとした木立で、昨日行った幅広の木立とはまったく別だ。冬の景色が観光ポスターにもなっているから、こっちの方も有名だ。

その場所に着いてみると、それは木々が調和して寄り添い、凜とした佇まいで、なおかつ存在感のある木立だった。

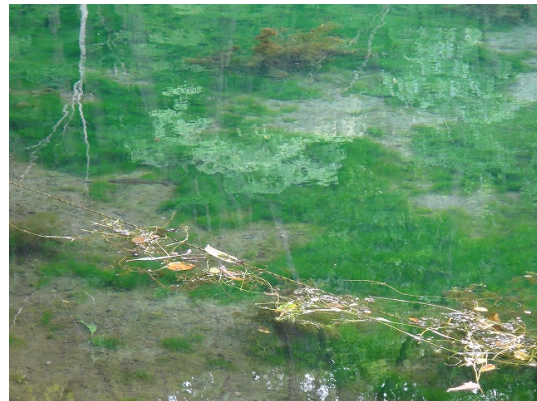


もうひとつのマイルドセブン

それから、「夏の陽」にも登場する鳥沼公園へ向かった。そこには私が人生で初めて北海道の夜を過ごしたキャンプ場があるはずだった。



鳥沼公園



池の美しい水

しかし、そこにはもうキャンプ場はなかった。後で知ったが、10年くらい前に無くなったそう。思い出の場所が無くなっていくのは、やはり切ない。

しばらく散策したあと、麓郷の森へ向かった。

麓郷の町に着くと、「中畑木材店」は健在で、ちょっとだけ嬉しくなった。これからはずっと頑張ってください、と思った。





「中畑木材店」前で



石の家駐車場で

麓郷の森、石の家、最初の家と見て回ると、15時を越えていた。天気予報では21時以降雨が降るので、早めに小樽へ向かうことにした。何しろ巨大な札幌都市圏で何時間かかるか分からない。

ありがとう富良野、そして美瑛。その美しい風景は決して忘れない。

もう旅も終わりなんだなと思いつつ、小樽を目指した。

途中、三笠のあたりで強い風が吹いていた。



ご当地グルメ？

札幌に入る頃にはもう真っ暗だった。

国道12号の、どこまで行っても続く渋滞にまかせ、特に急がなかった。

北海道とは、今日でお別れなのだから。少しずつ、少しずつ。その空気をかみしめていたかった。

途中の回転寿司で夕飯にし、小樽のフェリー乗り場へ着いたのは 20 時頃だったと思う。そしてそこで、旅の最後を彩る 6 人の素敵な面々に出会えた。



乗船直前の様子

## 8 日目

「帰りのフェリーで楽しく語らったみなさん、本当にありがとう。おかげさまであの旅が一層輝いて思い出されます。下船後、港からボーリング場まで一緒に走りましたね。あのわずかな道のりが、本当に楽しかったです。またいつかお会いできればと思います」

ボーリング場前でじゃんけんに負けてみんなに飲み物をおごり、解散となって、私は一人、みんなとは反対方向の宿に向かった。あの時の底知れぬ寂しさは、まさに「祭りのあと」だった。

舞鶴の港から 2～3 km のところに今夜の宿はあった。3980 円という安さに惹かれて美瑛に泊まっていた時、予約した。

女将さんが一人で切り盛りしている宿のようだ。エレベーターもないし、新しくもないのだが、手入れはゆきとどいていて、至る所に心配りされていて、好感の持てる宿だった。



9日目

いよいよ最後の一走り。  
舞鶴から神戸港へ向かう。



最後の旅立ちを迎えたスカブ君。荷物満載のこの姿にももうすっかり慣れた。

しばらく走ると「舞鶴城」という案内板が見えた。  
何度も舞鶴には来ているが、城があったなんて知らなかった。日本史通を自負する私にとって驚きの発見だった。



帰りは国道 9 号から 17? 号に入り、心細くなるような細い道をゆっくりと走り、神戸に入った。まだ早い時間だったので、「ハルヒ」ファンの私は、県立西宮北高校へ聖地巡礼に向かった。



おなじみの風景

フェリー乗り場へ向かう途中、買い出しついでにコンビニへ寄り、改めて他に  
行きたいところはないか考えたが、思い浮かばないし、夕方なので渋滞するだ  
けだろうから、まだ早いにも拘わらず乗り場へ向かうことにした。



フェリー乗り場の夕日



帰りは、ドライバールームではなかった。聞いてみたが、「今日はすきぎみなので」とめんどくさそうに言われた。しかし、私の後で来たライダーがドライバールームに行っていたので、腑に落ちない。最後だから、夕食はフェリーで大盤振る舞いのつもりだったが、やめた。今回はフェリーにお金は落とさないと決めた。

## 10日目

帰ってきた。

帰りたくなかったが、仕方ない。



新門司のフェリー乗り場で

まるで桃源郷にでもいたような10日間だった。

やはりそれは、北海道のでっかい空、美しい風景、そしてそこで出会った人たちとの思い出がハーモニーしているからだろう。

10年ぶりのバイク旅だったが、やはりバイク旅はいい。

例えば、交通機関や車での旅なら、一人で行って、一人で観光して、一人で食事してと、本当の一人旅になりがちだ。でもバイクなら、そこにいるバイク乗りとの仲間意識があって、会話があって、一人旅が一人旅ではなくなる。その出会いの楽しさと別れのせつなさが、えもいえぬ幸せなのだ。

あ〜っ！バイク乗りで良かった！！

2013 北海道旅ログ 完。